



クリスマスの奇跡

心
あ
っ
た
か
ニ
ュ
ー
ス

NMCAA
NO3

第1次世界大戦は、1914年7月に始まりました。その戦争中にクリスマス休戦と言われる奇跡が起こりました。戦場で敵対していたドイツ軍とイギリス軍の兵士たちが、クリスマス前の休日の前後に、数日間だけ休戦した出来事です。数カ月にわたる戦闘を経て、戦いに疲れていた兵士たちは、双方の合意のもとで武器を置き、「甲間地帯」を越えて、敵の兵士たちとプレゼントとして物資を交換したり、サッカーの親善試合をしたりしました。ある場所では、慰問に訪れたテノール歌手の「きよしこの夜」が響き渡ります。その声に気づいた兵がオペラ座であなただの歌声を聞いたと称賛を送り、それが停戦の合図となります。すると敵軍も停戦命令を出し、両軍が中間地帯で顔を合わせます。家族の写真を見せる人、身の上話をする人、住所を教えあう人までいたそうです。当時の様子を英軍Jファーガソン伍長は次のように手紙に書いています。

握手をして互いにメリークリスマスと挨拶した。その後はまるで何年もの友人のように語り続けた。ちょうど無人地帯の中央、鉄条網の間に英語がわかるのがいて通訳した。まるで街頭で円陣を組んで話し込んでいるようなものだ。すぐA小隊全員が出てきた。その後は円陣がまるで前線すべてにつながったように、あちこちにできた。暗闇のなかで、笑い声が聞こえ、煙草の火が見えた。互いに煙草を交換したものだ。言葉が通じないグループは身振り手振りになにかやっていた。数時間前まで殺し合いをやっていた人間がどのようになつたのだろうか。またある場所では、「クリスマススイブの夜にドイツ軍の塹壕の中で何かが光るのを目にします。ゆつくりと頭を上げてみると、輝いていたのは飾られたクリスマスツリーであり、さらにドイツ語で『きよしこの夜』を歌うのも聞こえてきました。これを聞いたイギリス兵たちも、英語で『きよしこの夜』を歌います。そして夜が明けると、両軍の兵士がそれぞれ塹壕を出て、停戦状態が生じたそうです。この休戦はクリスマスの

終日保たれ、一部では新年まで続いたところもあり。灯りの吊り下げられた小さなクリスマスツリーの列が塹壕を縁どり、放置されていた遺体は共同で埋葬されました。クリスマス休戦の公式記録は存在しません。自然発生的に生まれた非公式の休戦だからだそうです。ワイキペディア、HUFFPOST、YouTubeより)

編集後記

聖なる日に、私達の聖なる部分、という本質が出たということだと思えました。本当は誰もが戦いたくない、仲良くしたい。それは、できることなのだ!!! そう思えました。私達の本質は奇跡を起こすことができますのだと思います。